

JVCケンウッド 決算説明会資料

2015年(平成27年)3月期 第2四半期

株式会社JVCケンウッド

2014年11月5日

【資料中の略語】

- CE : カーエレクトロニクス(セグメント)
市販(事業)
OEM(事業)
- PS : プロフェッショナルシステム(セグメント)
COM : コミュニケーションズ(事業)
プロ : プロシステム(事業)
ヘルスケア(事業)
EFJT: EF Johnson Technologies社
- O&A : 光学&オーディオ(セグメント)
オーディオ(事業)
イメージング(事業)
映像光学(事業)
- SE : ソフト&エンターテインメント(セグメント)
コンテンツ(事業)
受託(事業)

- 1. 2015年3月期 第2四半期決算概況**
- 2. 第2四半期決算の総括と
組織および販社再編**
- 3. 2015年3月期 通期業績予想**

1. 2015年3月期 第2四半期決算概況

2. 第2四半期決算の総括と 組織および販社再編

3. 2015年3月期 通期業績予想

2015年3月期 2Q決算(累計) サマリー

- ❖ 売上高は事業売却影響(約80億円)などにより減収(対前期91%)
- ❖ 営業利益は、構造・事業改革効果により大きく改善し、黒字転換
- ❖ 経常利益も大きく改善。純利益は事業売却にともなう一時損失や税金増などがあるも、損益は改善

(億円)

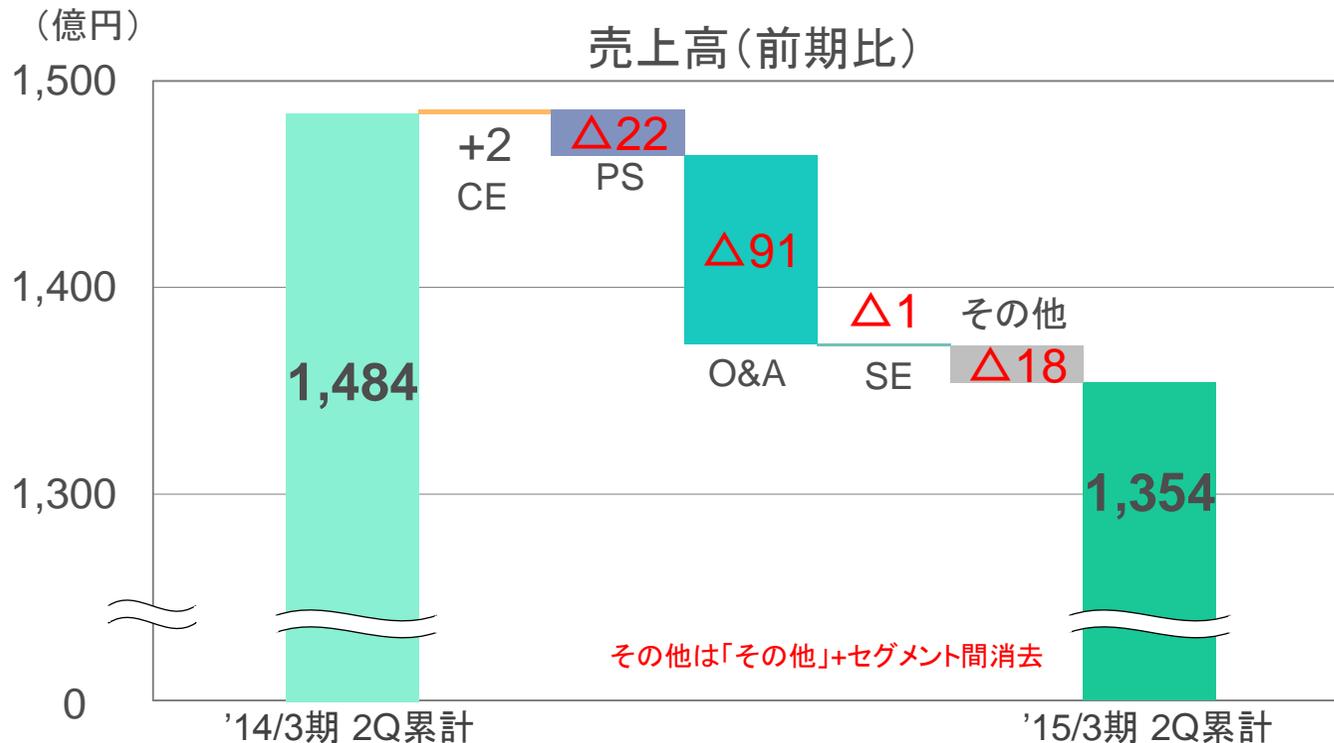
		売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
2 Q 累 計	'15/3期	1,354	11	△4	△30
	'14/3期	1,484	△22	△42	△51
	前期比	△130	+33	+38	+21

損益為替レート		1Q	2Q
'15/3期	米ドル	約102円	約104円
	ユーロ	約140円	約138円
'14/3期	米ドル	約99円	約99円
	ユーロ	約129円	約131円

2015年3月期 2Q決算(累計) 連結売上高(セグメント別)

❖ 2Q累計実績: 1,354億円(前期比 $\Delta 8.8\%$) [減収]

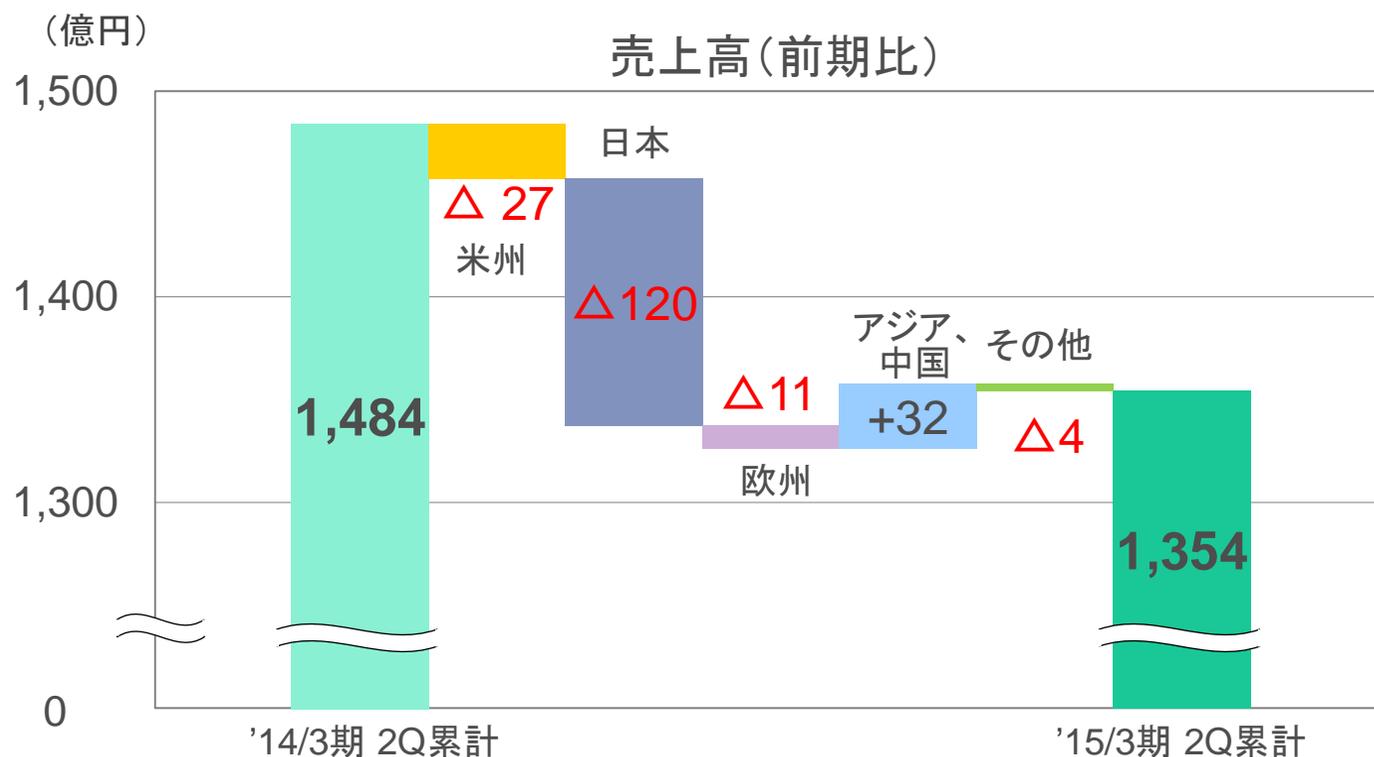
- CE:国内は増税影響あるも、米州・アジア堅調やシンワ連結化から前期並み
- PS:ジオビットの売却影響(約60億円)などにより減収
- O&A:イメージングの販売減などから大幅減収
- SE:2Qに販売が回復し、前期並み
- その他:米国(ディスク製造受託)子会社売却の影響(約23億円)で減収



2015年3月期 2Q決算(累計) 連結売上高(地域別)

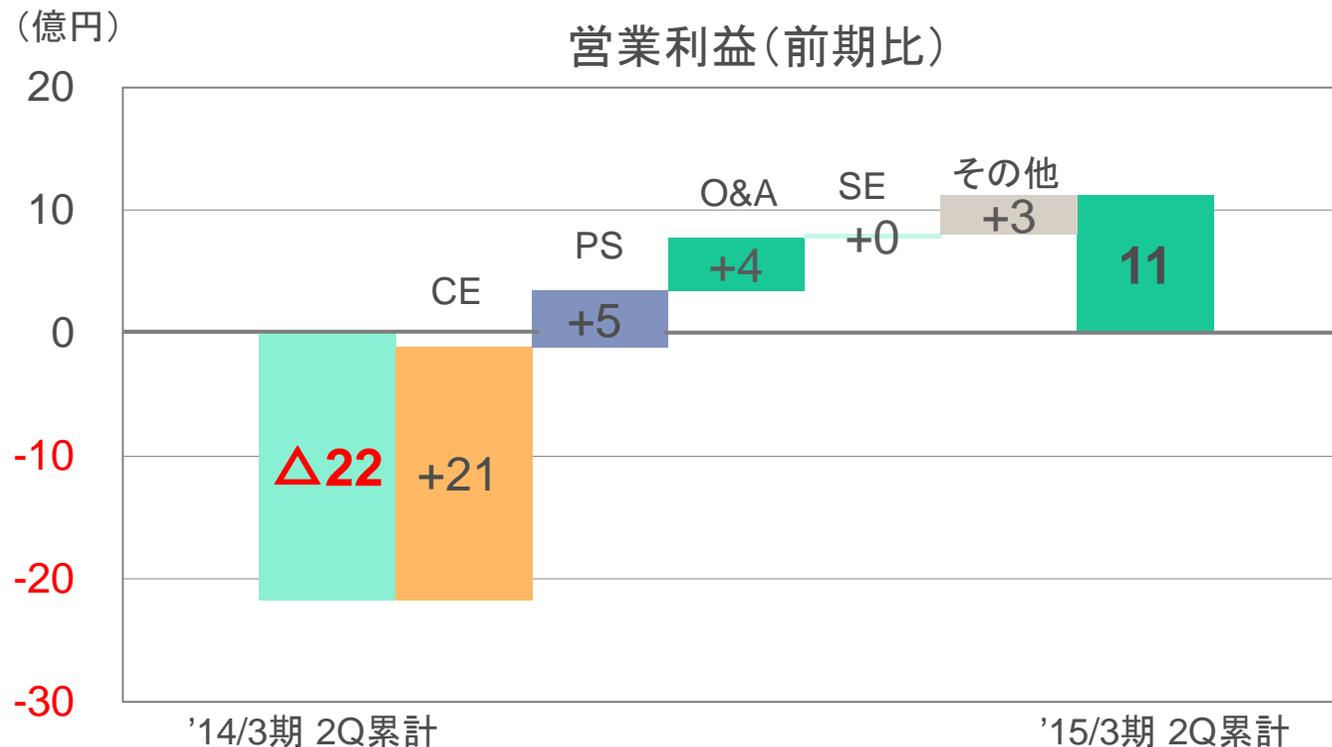
❖ 2Q累計実績: 1,354億円(前期比 $\Delta 8.8\%$) [減収]

- アジア・中国: シンワ連結化効果などから増収
- 日本: ジオビット売却やイメージングの販売減などから減収
- 米州: O&Aの販売減影響から減収



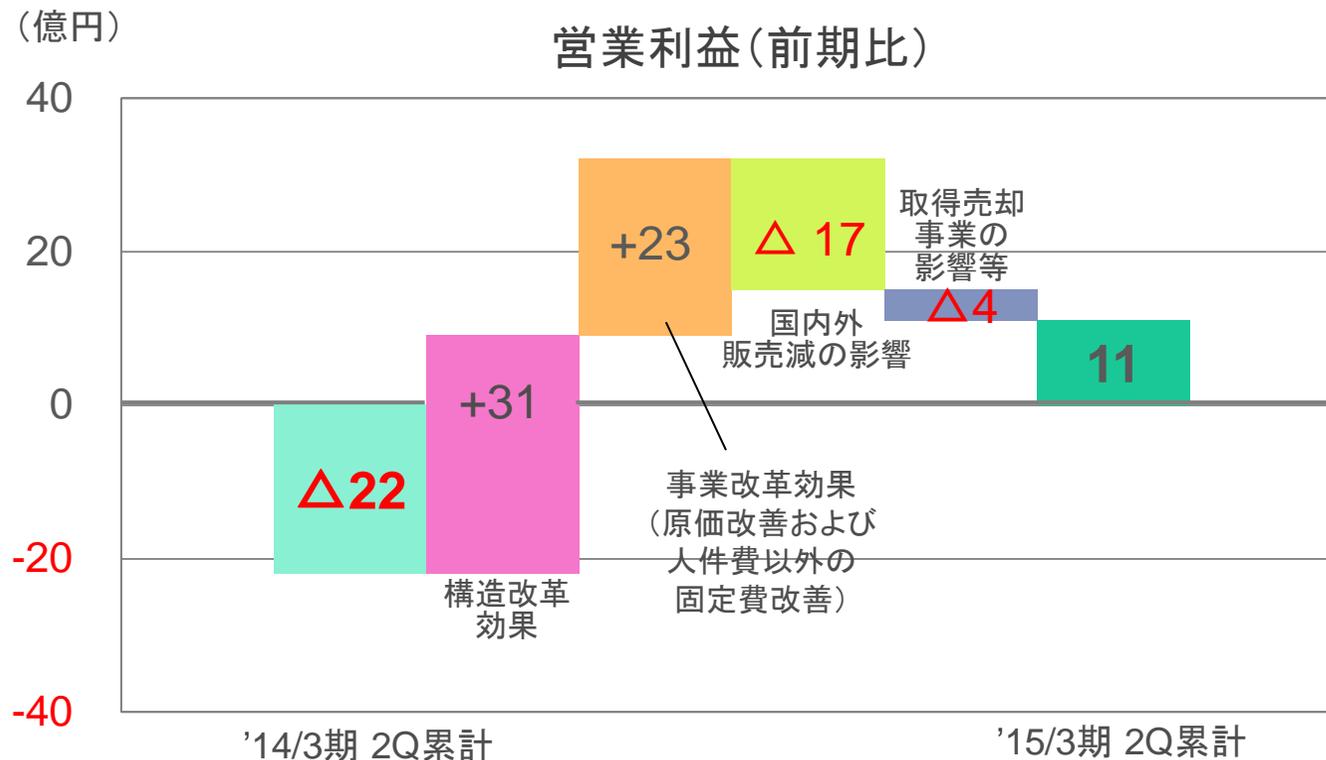
❖ 2Q累計実績:11億円(前期比 +33億円) [黒字転換]

- 全セグメントが増益、構造・事業改革効果が発現
- CE:事業改革(原価総改革、販売改革など)により、黒字転換
- O&A:イメージングは減収ながら損失が大幅減少。構造改革による固定費削減効果も加わり、2Q単独では黒字転換



2015年3月期 2Q決算(累計) 連結営業利益(要因別)

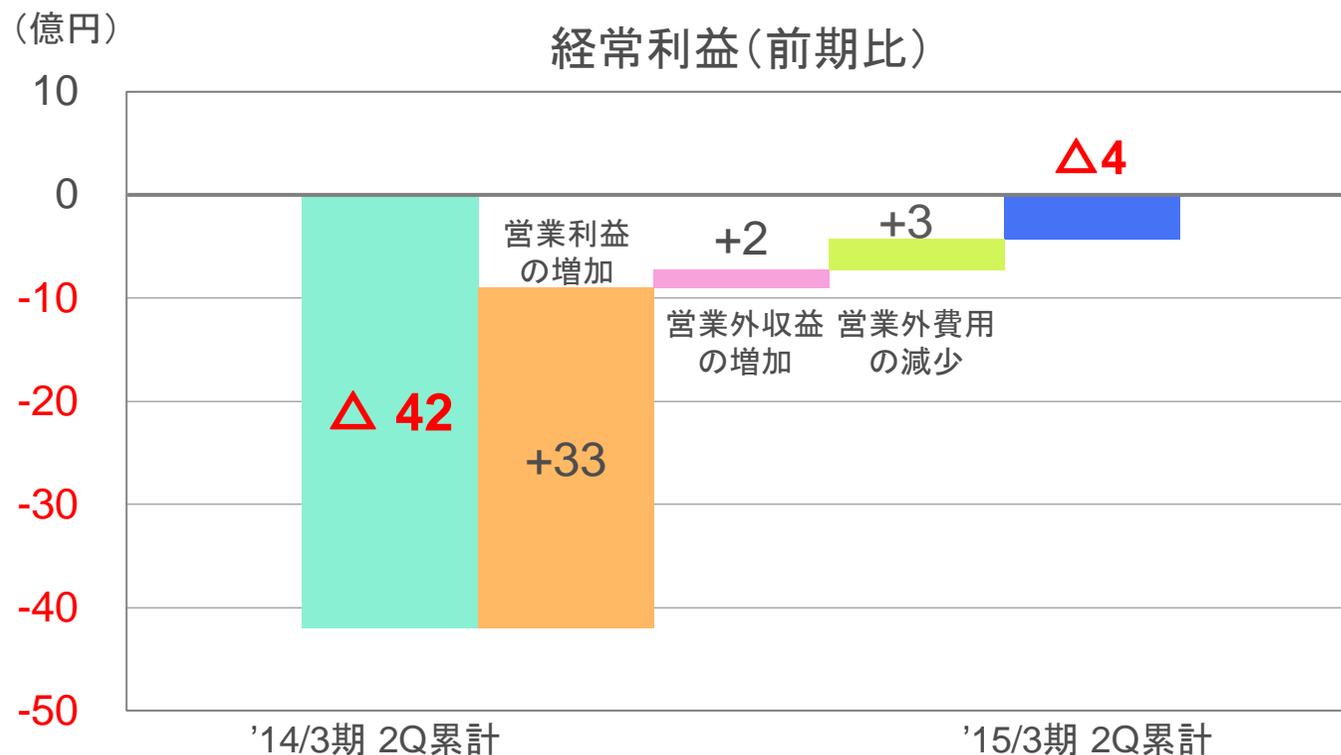
- ❖ 構造改革(国内外の人件費削減)効果は、期初想定+65億円(通期)に対し、2Q累計実績で+31億円とほぼ想定どおり
- ❖ 事業改革(原価改善及び人件費以外の固定費改善)効果は、期初想定+25億円(通期)に対し、2Q累計実績+23億円と想定以上に改善



2015年3月期 2Q決算(累計) 連結経常利益

❖ 2Q累計実績: $\Delta 4$ 億円(前期比 +38億円)

- 営業利益の増加にともない、改善
- 加えて、営業外損益も、借入手数料の減少や受取配当金の増加などにより、5億円改善



2015年3月期 2Q決算 貸借対照表サマリー

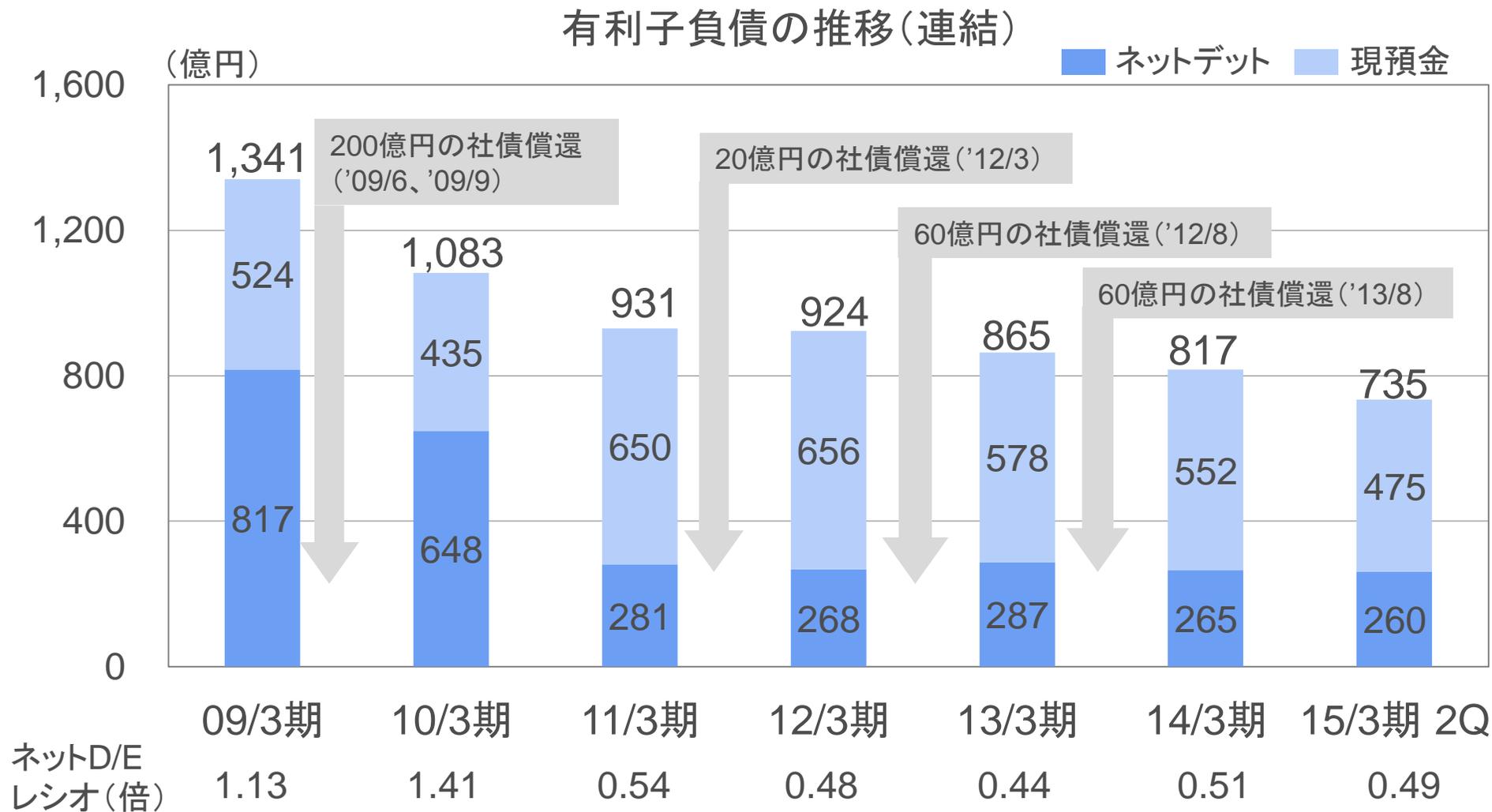
- ❖ 総資産：構造改革にともなう費用支出や借入金返済などによって現預金が減少したことなどから、149億円減
- ❖ 有利子負債（借入金と社債の合計）：82億円減
- ❖ 自己資本比率：1.8%ポイント改善し、21.2%

(億円)

	'14/3期末	'15/3期 2Q末	前期末増減
総資産	2,672	2,523	△149
有利子負債	817	735	△82
ネットデット	265	260	△5
ネットD/Eレシオ(倍)	0.51	0.49	△0.02
資本剰余金	459	456	△3
利益剰余金	174	145	△29
純資産	598	607	+9
自己資本	517	534	+17
自己資本比率(%)	19.4	21.2	+1.8

2015年3月期 2Q決算 有利子負債

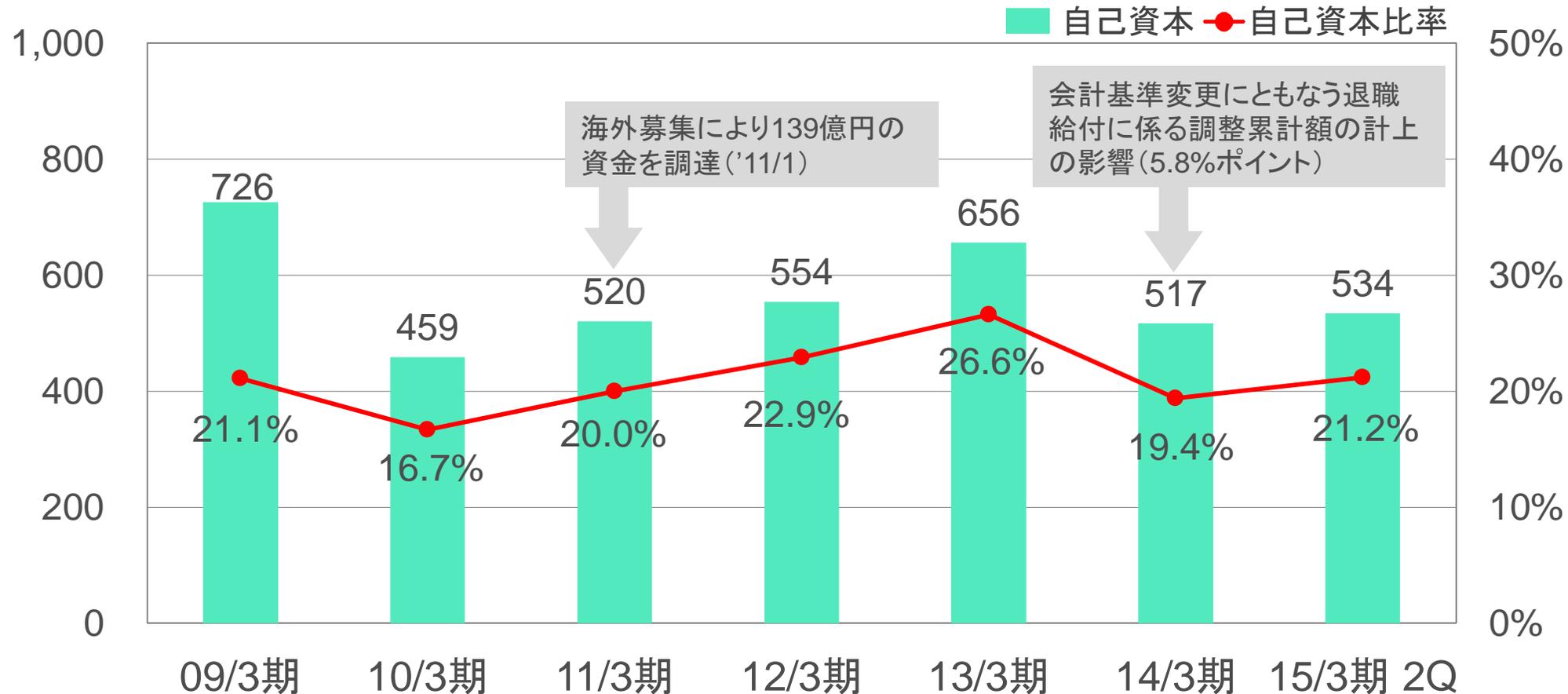
❖ 有利子負債、ネットデットともに、段階的に減少中



2015年3月期 2Q決算 自己資本比率

❖ 主要通貨に対する円安影響で為替換算調整勘定が増加したことから、純資産が増加。自己資本比率は20%台へ回復

自己資本比率の推移(連結)



※ なお、2011年8月25日に発行した第1回新株予約権の全部について、2014年9月30日に無償で取得及び消却を行いました。

2015年3月期 2Q決算(累計) キャッシュ・フローサマリー

- ❖ 前期実施の構造改革にともなう費用支出(約64億円)などから、フリー・キャッシュ・フローはマイナス水準に

(億円)

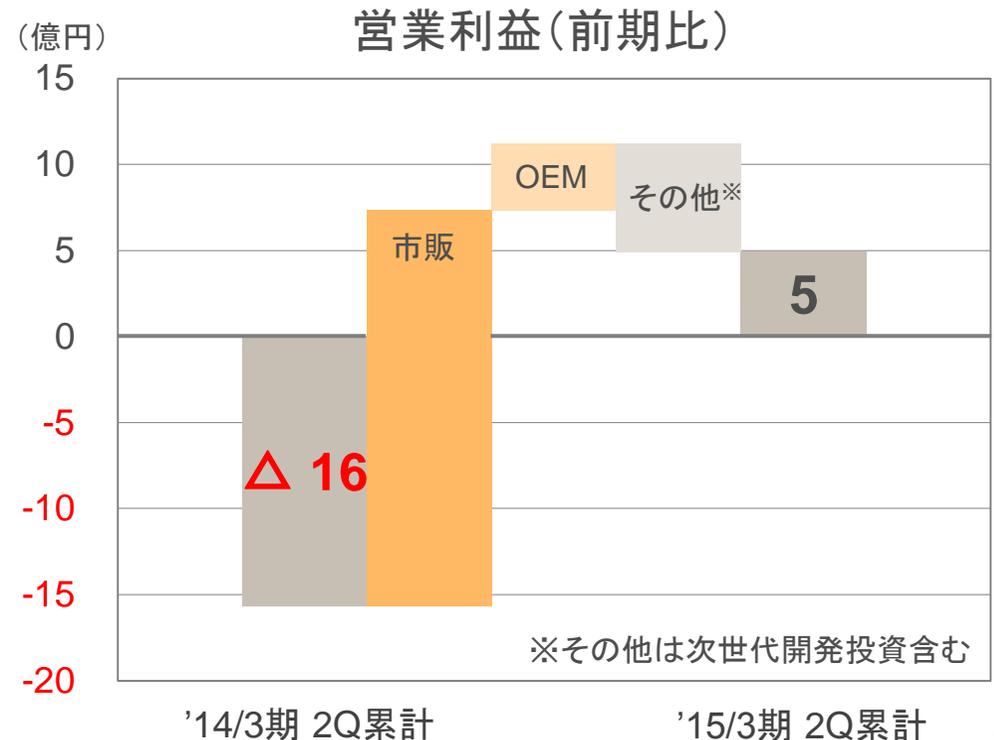
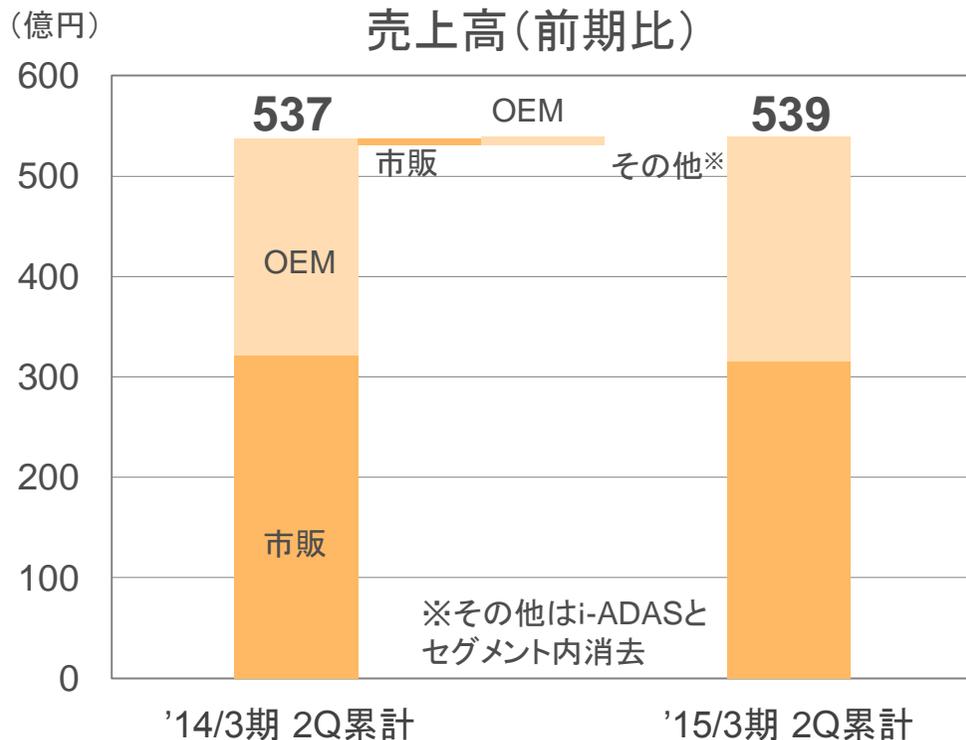
	'12/3期	'13/3期	'14/3期	'15/3期 2Q累計	参考値 '14/3期2Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	89	98	149	34	34
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 65	△ 134	△ 107	△ 40	△ 39
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 15	△ 86	△ 96	△ 85	10
フリー・キャッシュ・フロー	24	△ 36	43	△ 6	△ 5

※ フリー・キャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

(参考)セグメント別情報

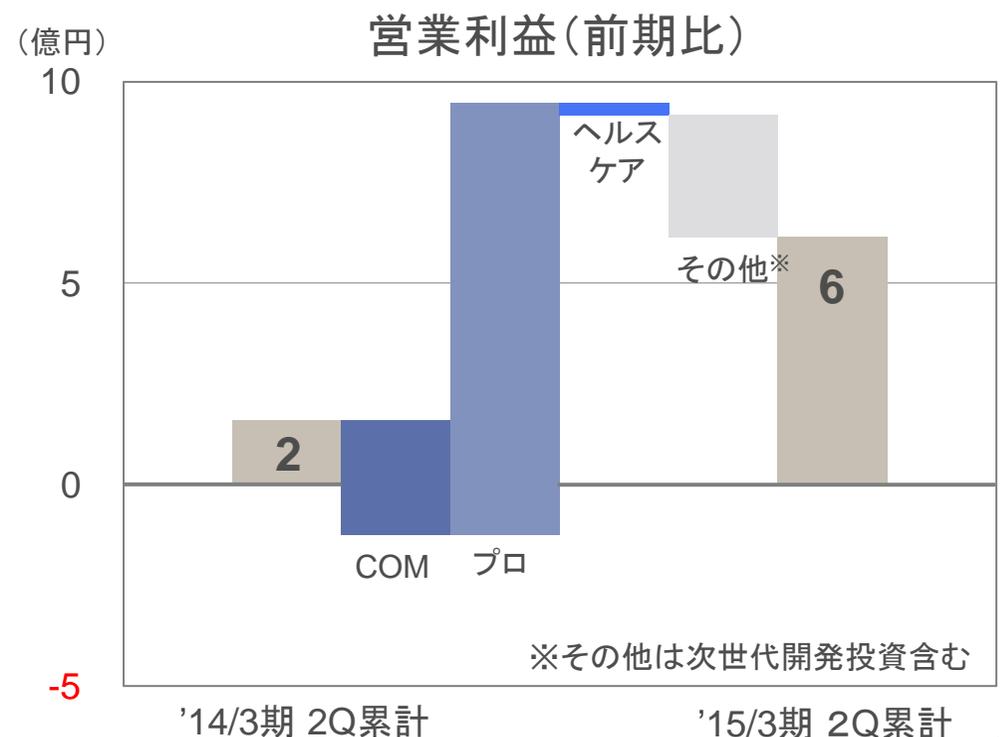
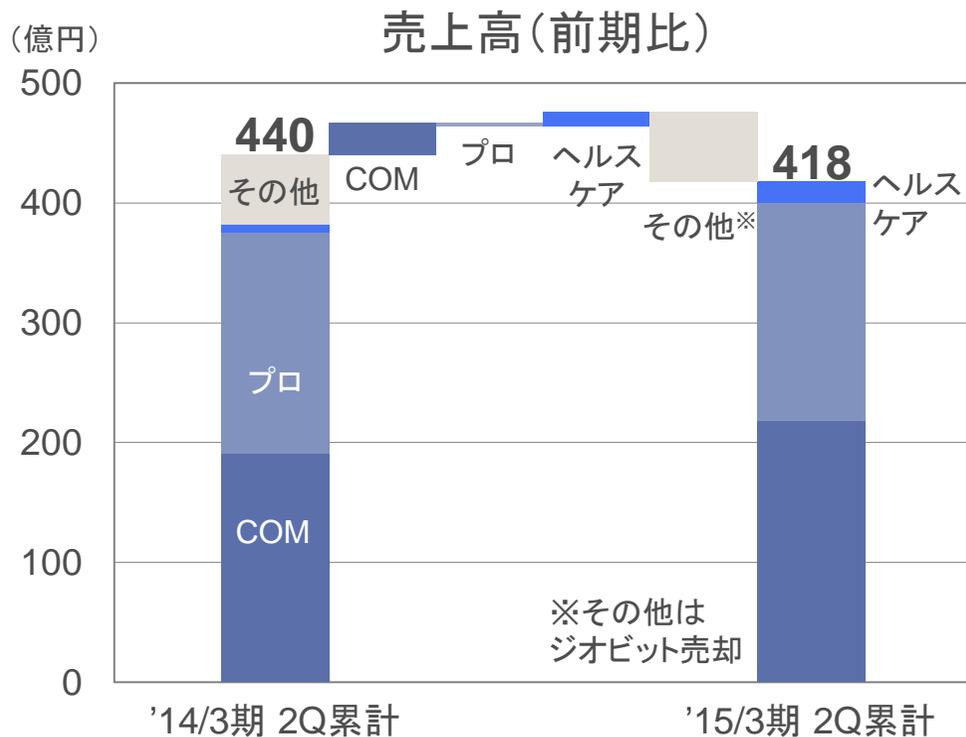
2015年3月期 2Q決算(累計) カーエレクトロニクス

- ❖ 売上高: 市販は消費増税前の駆け込み需要反動減により、国内販売が影響を受けるも、アジアが堅調に推移し、前期並みを確保。OEMはシンワ連結化、アジアの用品(ディーラーオプション)堅調で増収
- ❖ 営業利益: 事業改革効果(原価総改革、販売改革など)も相まって市販は大幅損益改善し黒字転換。OEMは損失減少し、CE全体で黒字化



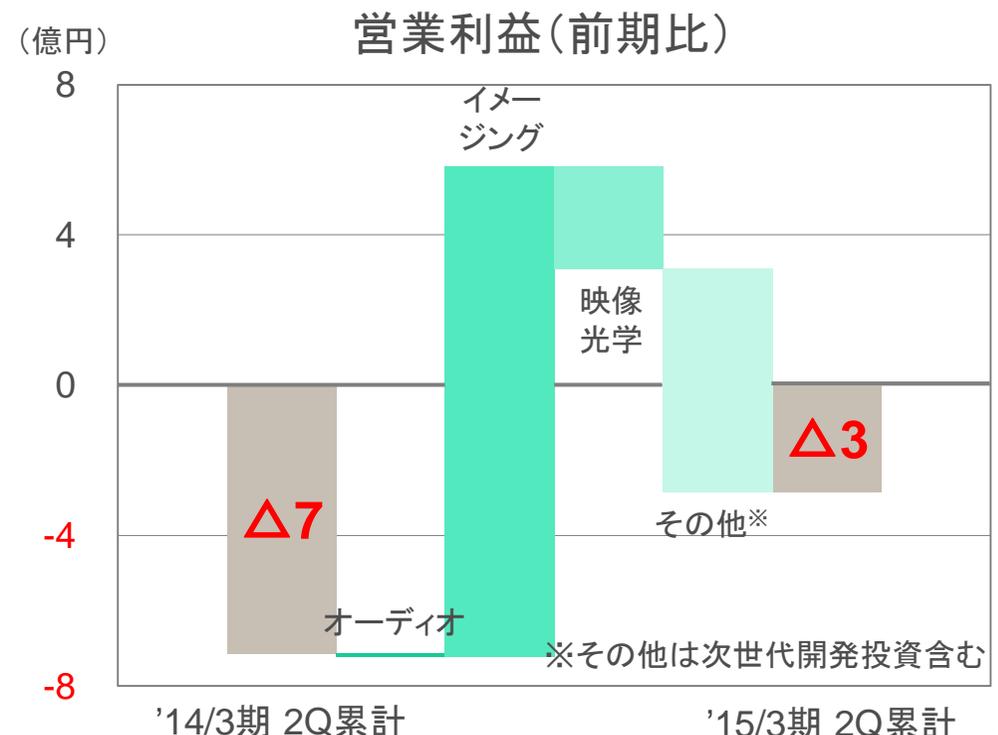
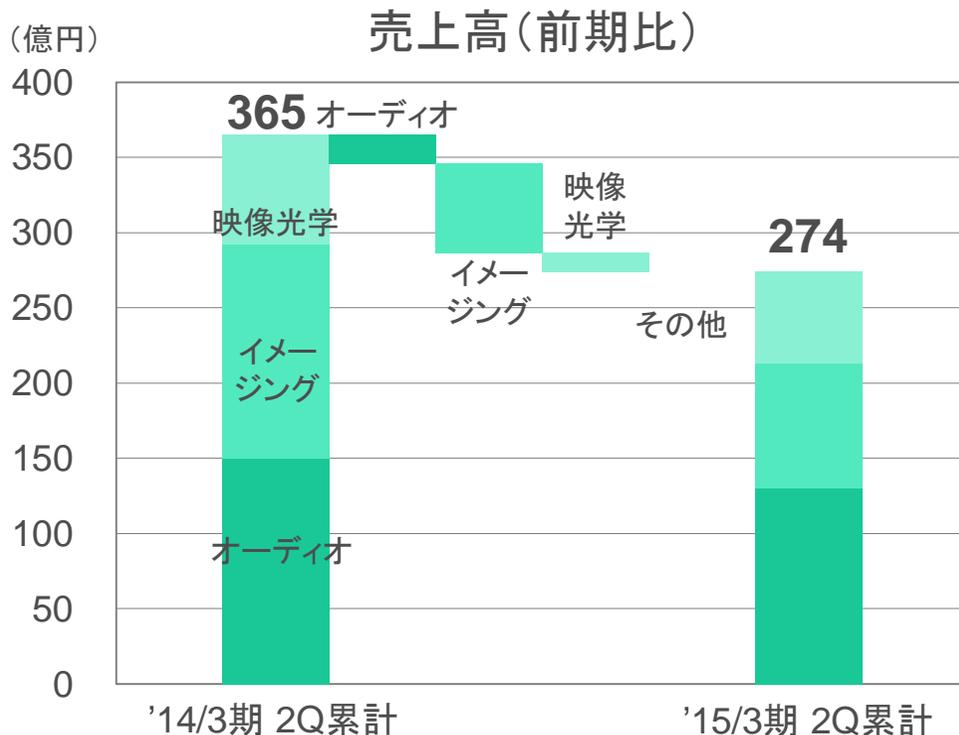
2015年3月期 2Q決算(累計) プロフェッショナルシステム

- ❖ 売上高: COMは最大市場の北米が回復、EFJT子会社化も加わり、増収。プロは海外販売減を国内でカバーし前年並み。ヘルスケアは昨年7月に買収した事業が今期は期初より売上に寄与し、増収
- ❖ 営業利益: COMは北米が回復も、北米子会社EFJTの案件受注の期ズレ影響で減益。プロは国内改善で増益



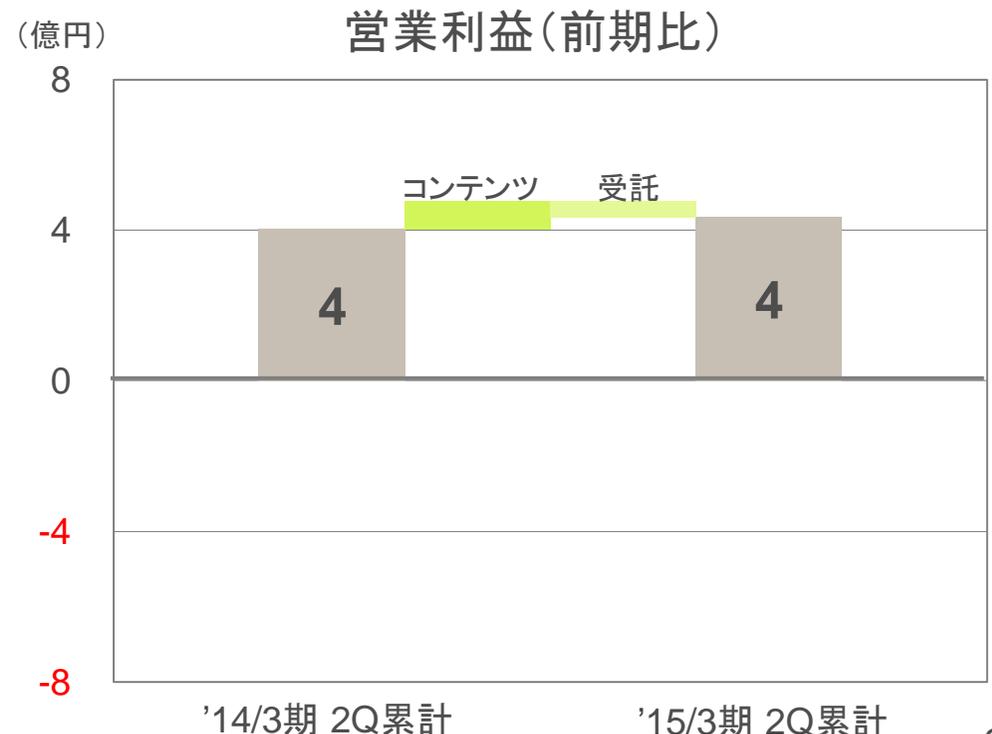
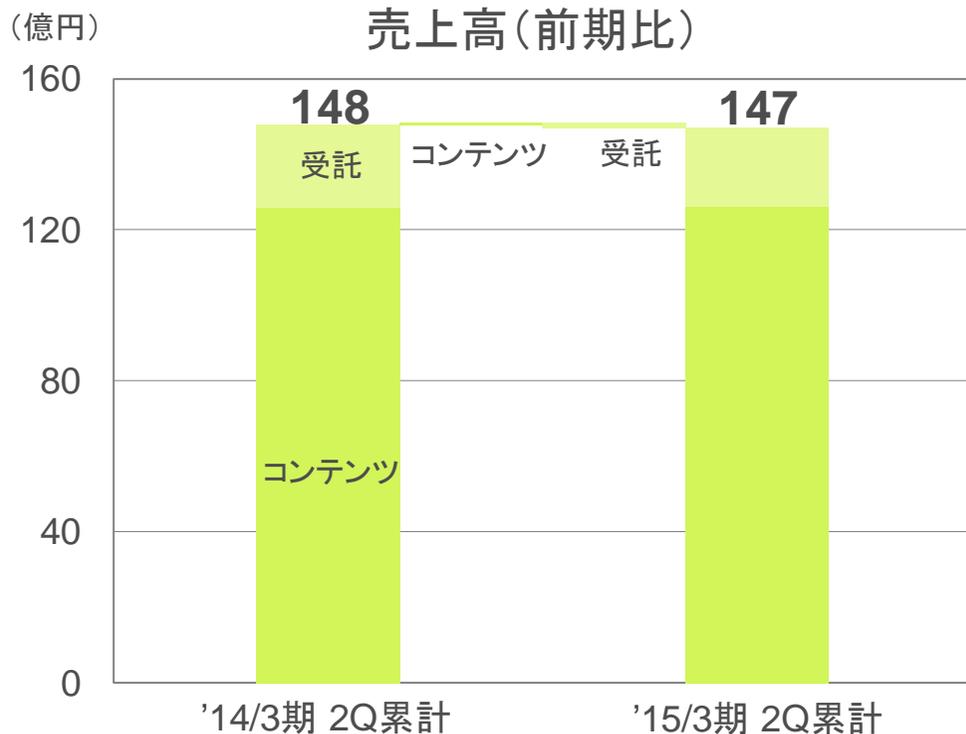
2015年3月期 2Q決算(累計) 光学&オーディオ

- ❖ 売上高: オーディオは、ホームオーディオの販売減で減収。イメージングはカムコーダーの商品絞り込みの影響、映像光学はプロジェクターの販売減により減収
- ❖ 営業利益: 映像光学は減収減益も、イメージングは事業改革が奏功し、営業赤字ながらも大幅改善し、2Q単独では黒字転換



2015年3月期 2Q決算(累計) ソフト&エンターテインメント

- ❖ 売上高: コンテンツは作品編成の変更も2Qに販売回復し前期並み。受託は外部受託の発売延期や旧作の不調から減収
- ❖ 営業利益: コンテンツは商品構成効果により増益、受託は減収減益



1. 2015年3月期 第2四半期決算概況
- 2. 第2四半期決算の総括と
組織および販社再編**
3. 2015年3月期 通期業績予想

「業績は着実に回復基調にある」

- ❖ 構造・事業改革効果が確実に発現。2Qの対前期営業損益改善幅は、1Qの約1.5倍となり黒字が定着
- ❖ CE:市販、用品(ディーラーオプション)を中心に力強い回復
- ❖ PS:COMの北米端末事業が大きく回復。北米子会社の不振も、上期に対策は終え、下期回復へ
 - Zetronは2Qで既に復活
 - EFJTも販売、生産面での相乗効果が発現し始める
- ❖ O&A:損益大幅改善。イメージングの対策は上期で終了し、2Q黒字化。ホーム事業の改革終了
- ❖ SE:四半期単位の作品編成影響を吸収、半期で損益改善

組織再編

❖ ホーム事業の改革終了（BtoBへシフト）

- BtoCからBtoBへリソースシフトを加速（上期）
 - イメージングが2Q黒字化。リソースを車載カメラ・業務用カメラへシフト
- カメラ・映像の業務用を主軸に、開発・販売の一体化（11/1付）
 - 業務用機器の開発・生産・販売の統合による強化
- ホームオーディオは改革を終了してCEセグメントへ

❖ CE OEM事業の強化（11/1付）

- OEM部門を用品（ディーラーオプション）部門と純正部門に分離
- 純正部門はi-ADAS事業化タスクフォースと連携し、新規純正案件の獲得推進

販社再編

❖ 米州

- 北米販社統合 (2社→1社):10/1付
- カナダ販社統合 (3社→1社):下期中

❖ 欧州

- 英国販社統合 (3社→1社):下期中
- ドイツ販社統合 (2社→1社):11月



事業運営や管理業務の効率化、リソースの最大有効活用
→ 販売拡大、事業体質強化

1. 2015年3月期 第2四半期決算概況
2. 第2四半期決算の総括と
組織および販社再編
3. **2015年3月期 通期業績予想**

2015年3月期 通期業績予想

❖ 通期業績予想は為替見直しの上、据え置く

- CE、COMの力強い復調が全体牽引。ホーム事業改革も終了
- 売上高はジオビット、JAIなど売却影響(約180億円)を除くと微増
- 構造・事業改革効果は想定を上回り、国内の増税影響、ホームの販売減も想定内。よって、上期の対前年改善要因は、下期も継続性が高い
- 営業外、特別損益対応も計画どおり進展
- 下期の想定損益為替レートを見直し
 - 米ドル 105円→110円、ユーロ 135円→140円

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
'15/3期	3,000	75	45	5
'14/3期	3,163	44	△1	△66
前期比	△163	+31	+46	+71

JVC KENWOOD

creates excitement & peace of mind

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えうるリスクや不確実な要素としては、(1)主要市場(日本、米州、欧州およびアジアなど)の経済状況および製品需給の急激な変動、(2)国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3)ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4)資本市場における相場の大幅な変動、(5)急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与えうる要素としてはこれらに限るものではありません。